

57A
27
60

源氏列哥



引

ふたつ分

ふとくそはあやうのむくあわれくさけはたけや

夫と我へくるるすとりとらん昔れ世をえりまほしけれ

後漢雜二

高村內親王

すゝめつ本よまゐれり枝もあり花とけ紙うき疵をのりうきうき
古今悉二 友則

友則

万
ふしきいふをてをて下ふてふーをを

[illegible]

仿於晴延

うつをいへうし紙うつもあぐさあうかうまれ山ぐあま
 仁孝天皇
 ういへうし紙うつもあぐさあうかうまれ山ぐあま
 仁孝天皇

より人あらず

おえとていふとみづもえんは、そ人をさひのやまんへをた

わづ時ありれすまにうらさあてそ人のこころ
後拾中

人いふくそむちなるあてられ、あけさ秋もあけく、

くし人ちふ

義補

人のちやの心はやゝあゝねえもみぢぢやゝゝちゝゝあゝいぬゝか
紀伊大之

紀元之

よ人もあらぬれとくまハ重藻とてさけくるとくま

いそくをうへにまゝふりて
乃人色くちめりやぶれり

八折

法雜一

兼補

人の名をうらやまわねこもあはぶこちよまといぬうら

明倫

後

雅正

玄鳥の父ぢもねどもつゝは地うろちをすくものこや
八曆集

八曆集

仁壽集

玉すれわくろそり地を羨るゝと
 おのひけり
 徳宣

知靈

四

山崎和久左衛門ゆひのこひうき長つるようふとそ、その

41

何々

續狀

傷正通脈

うういふやうな書家のめいをきく
 三也
 在東京平

在原業平

すうれ　わ　ひ　う　ぎ　の　す　り　衣　志　の　ふ　の　う　う　れ　う　う　り　う　う　れ　も
 振　志　四　　う　う　う　う　　い　れ　ん　ん　　う　う　人　う　う　

人

やふそくも人よあれさあまのひてそこのハネ
振動者

王

秋風のふりよるをきくはるるをみたり
な

金人壽

今、いふ人もおぼしういふくゝて門
まぢりして
よき人あり

ふと人あふ

人々をさしおきていふに
 人々をさしおきていふに

美人志

くらすめいふつれゑさうにそゆあふひつてさうのうい
 五反 傍正通昭

傷風通胎

くちすけはまろはまろぬきもて何ふ家とてぬであさむく
仲勝

平定文

平定文

引くやうなうらやうな長蛇のつゝつゝつゝつゝつゝ

左排

ありやわさうちさうあひまふかれうさまでせしき
後秋と 困院

わつらにセタつめさちうてさちやふもさあさすあさ
後秋と くら人あさす

うらうらに秋もあうか立田眺みちさじや山とささう
後秋と 後集 侍御

雲おそあひうさうお月と秋やとさしてゆくはさ
後集 侍御

死き舟さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後秋と くら人あさす

秋もあさうに宿さうさうさうさうさうさうさうさう
後秋と くら人あさす

わてさちうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後秋と くら人あさす

りりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後秋と くら人あさす

いさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後秋と くら人あさす

世中さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後秋と くら人あさす

ありやわさうちさうあひまふかれうさまでせしき
後集 侍御

わつらにセタつめさちうてさちやふもさあさすあさ
後集 侍御

うらうらに秋もあうか立田眺みちさじや山とささう
後集 侍御

雲おそあひうさうお月と秋やとさしてゆくはさ
後集 侍御

死き舟さうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後集 侍御

秋もあさうに宿さうさうさうさうさうさうさうさう
後集 侍御

わてさちうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後集 侍御

りりさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後集 侍御

いさうさうさうさうさうさうさうさうさうさうさう
後集 侍御

うらうら

タヤニハシラセキ一月もたてくれワセニミルモノト云

集

ワレユレユレキミナハシラセハシラセハナハ

集

風ウケト人ハシラセテミルハシラセニミルハシラセ

集

冬ウケハシラセハシラセハシラセハシラセ

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

タヤ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

集

ハシラセハシラセハシラセハシラセハシラセ

後集二

ひふたね

廣志四

人子

西化室

人

13

ねむるにうんゑんも我をまづけりあつひ

三

うき世にちうく成然んまゝのひつうも

三

人々を
人々を

卷之四

四

すうもとけき色二よりよみて別の色をせり、をい

三

新書卷下

永初

在雜下

下

五

子くは 世にふれゆひくくぬくくぬく

3.
4.

わまれすじきものうちもくろく破はせさるわをたそく

續後尺

大勝心要

卷四

後志四

惟了果

卷之三

名まろくまろくまろくまろくまろくと

君をいふ人も人よりよくてとふわづらふれとふらん

拙書

先良就

卷一

七序

横香山ひさしゅう山のおれあきくゝんをせふまはれた

やうそくをげあさるゝ社のいふところのおの水

新長

上东门院

あつとも今更なるはゆゑなりけり

時

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

名

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

我世へ名うたまはねんきりはのこるわ日しう

秋のこころあはれ世よりあはれこころひらきこころ

つらねるもれつらん衣ききうられつるさうさう

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ

あはれこころあはれこころあはれこころあはれこころ





後三

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

後三

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

作五

无良

張長

行基

海報

素雅法

卷一

ぬきこのさいこのまの<sup>二</sup>版  
 ちのうそろ白王様しやうやうさ<sup>二</sup>版

それともさんまうきうきうきうきう  
四下わらでさんまのうきうきうきう

うきみちうきみちうきみちうきみちうきみち  
心もさういふゆり

くまのこゆりぎの<sup>七</sup>けきいそろそろぎ1わいまい物とこゆりぎの

螢ちりきり

2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841.

室の入り口は、土間のまじりてゐる。

いづれかのちひさしきうゑのちひさしきうゑ

引

收丁

石

友朋

五

子之入也

紅毛

在厚焉

信

石新下

卷八

石意

卷之七

子

卷之六

2

3

5

下

暉養文

の古歌上

赤人

このゆえにうらうらぬいふに海一のさうさうなれふいのしつ

古歌下

行年

さうさうなれふいのしつに海一のさうさうなれふいのしつ

白波いさうさうなれふいのしつに海一のさうさうなれふいのしつ

六帖

海歌一

兼補

人のちやの心やうらうらぬいふに海一のさうさうなれふいのしつ

古歌上

古歌下

行年

海歌二

古歌上

古歌下

さうさうなれふいのしつに海一のさうさうなれふいのしつ

古歌一

古歌下

古歌上

古歌下

古歌上

古歌下

古歌上

古歌下

古歌上

古歌下

古歌上

古歌下

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

わが新

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

惟

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

古

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

わが新

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

後

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

古

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

後

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

後

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

後

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

後

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

後

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

後

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

後

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

あきりすもあき人ほるしう風あきくすいしう

五二

おはつからよ子日のおまゐるうに松をいそひへうたれ

五三

いふらん若れ中うすまはたせれうううにううしううん

五四

ううれうううううううううううううううううううう

五五

ひえうつあすひくされれれれれれれれれれれれれれれ

五六

ううううううううううううううううううううううう

五七

うひわれ今ううううううううううううううううううう

五八

難はううううううううううううううううううううう

五九

あうううううううううううううううううううううう

今うううううううううううううううううううううう

ううううう

うううううううううううううううううううううう

江戸

六〇

今ううううううううううううううううううううう

六二

うううううううううううううううううううううう

六三

世中ううううううううううううううううううううう

六四

うううううううううううううううううううううう

六五

すううううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううううう

六六

うううううううううううううううううううううう

六七

うううううううううううううううううううううう

六八

我座うううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううううう

うううううううううううううううううううううう



寸雲

やうくしてゆゑもいふ女われしつゝきこゝろのあはれくもあやうき  
おとこへいふ

ふくろ

うゝゝその後え人のつゝゝゝいゝゝゝのそゝねぢゝゝあゝ悔ゝゝ  
ふゝゝ今ゝ守

金

く、ひんぢとちうてふひうきうちのうきとまじりたり

馬ノ木

獨人そのまゝらしめなはつてばさういつてねえええやええやさ

次よりえやろわ<sup>ニハ</sup>  
いせいにあそむふゆりうはづるにぞな

ふれいあもくねうやとまにやとてねうやとて

世中へ慕のつられうさ橋くちろくつふれをいそ

表

えつけのこね

漢書

今寺

我より人々衆のあわれやうれゐるその先を待つて

[illegible]

廣州

五十六

[illegible]

子一うらも  
ふも人しと

✓ 公 公  
海 海

中  
原  
發  
明

極之至  
執之至

卷之八

あつさうのふらのほろろ名のりそれふれうと物とあふきとあふん

雪分

修訂尺

老のみのふとけいふと人となすつてかくし

徑者物記

世所共知

かすうこそ

里人のいふ夜のきりくもれゆくまゝあゝうしめや

行天

すまじあまじゆきやう衣われゆけはくくのそぬ  
たさりけれ

長

心れりやふと心のうゝふてあきらまひ人長おやうし  
お行又

行天

ガゼーとていふは今又人のうゝをもちけりといふ



嘉

卷之八

ふいふひふれり。さうしてあふれり。こころをさんご  
つゝるりふれり。はなへんのつゝさきふれり。

[illegible]

卷二

[illegible]

樂府

お水川古所のふり二つありてふくみあひまん二つありて

[illegible]

何遜

あさきとと 神いづるをうへにたふす

六和 漢書卷二

一、美社の下をいふをうけいふにあつてゐる

カ  
ナ  
ナ

カ十二  
船より北をすて碇をひきぬると又三浦のちをえどうと

つぎに、つるとうりのうとやといとなとあといのうと

そとをうらなひて

三

引十八

清是

あゝ玉のうらなふくわくをきくもみいはいへん  
とていつう

讀書

人々を以て其の  
 心をもつて

古

素性法一

古二十

大徳寺  
 山号大徳山

新

三條右殿下

廣是之

大何者  
 人の心はくさくさしたるものなり

私の心はきつてゐる。この日、このとき、

卷之九

今も此書も世に著れども其里にありといふ事

卷之五

其ころ心ありとてのやせん世れありとて人ハうゑねハ

惟家

ういふういふ世にふくむるものなり  
唯

[illegible]

戸始々々々  
門奇々々々

引哥事歌



いふはうの山はのふらしてうらなう人々  
後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

あふはう

天明初

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

あふはう

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

万

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

あふはう

後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

万

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

二葉大士ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々

後表ト

あふはうの山はのふらしてうらなう人々





梅うえ

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上

春長上



後書

伊藤

美日の一とちうにわいせしめをせしめんとせよ

後書

伊藤

美折とていふはなつて 二つある

後書

伊藤

美の折のやにわち梅のまういそをわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて

後書

伊藤

うきとてやまをわくやとて地をわくやとて





書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

書色二

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

人三十一

右下

今こゝにあらはれしうらなひのめづるものなり

左表

あゝ人へ一おぼしめしはのひかりの人の心をあらはしけり

後表

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

右表

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

右表

別表

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

左下

あゝ人へいかにしるべきものなり一月甲子に

タマシ

千景下

た国法一

は秋下

つゆさ

石秋上

おと人あしす

くわ加代

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

おと人あしす

後表

秋のふれ月れひらーあつたれとくふのふもこわへしちり  
あつた人のけふはうねや水のきこはるもいふちりてそ

信瑞

いふていふとくふのふのうへちりあつたあつたのふ

新古表

くちあはあつてそんてちのれあやふつとさあつたさ  
ひつとさううはひつとさあつたさううはひつとさ

在排

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

いふていふとくふのふのうへちりあつたあつたのふ

このふ

後表

はあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

竹産

在志

山橋ふのううはひつとさあつたさううはひつとさ

新古表

いふていふとくふのふのうへちりあつたあつたのふ

旧表

秋のふれ月れひらーあつたれとくふのふもこわへしちり

和泉或戸

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

後表

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

富内内

後表

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

和泉或戸

在表

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

在表

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

信瑞集

後表

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

信瑞

新古表

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

信瑞

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ

後表

あつたあつたさううはひつとさあつたさううはひつとさ



後集

主上卦

後表  
 かしらとてよおきおー秋のあそびうんもれとてひかりや  
 秋無月いつもあられかりーとて秋ひつかりあかりに  
 やれいおーやうひいふはとてぬーぬあくも人はいまもれり  
 ういふとてひあまひそ水くみれぬかりせれとてあかりかり  
 後表  
 かしらとてうき月見とてあまういーとてもよほもてぬとてきく  
 あつこいおど

王初文

ふゆみちおもひゆくきつるはくまふれり  
そせいほー

五秋上

そせい法

三

五ノ人三ノ寸

古玉上

梅の香　さくら　さくら　わり　さくら　人のさくら　さくら　さくら  
下

右執上

秋のふし紙のふしをきく麻のめいはいすてまねまね  
まね

古

妻のよはやふあやちう梅のさうろくをうろく

李

やとくはうわととあそつうわととえつうわし女ニ仲のよふ  
たふしう。

知者

白雲子

友朋

思ふにこれこそん梅のさつとてうきとあう人さうら  
 恨てのほえ人のつらうもつらういひてふともなるう  
 浪主

後集

子

後美下

陳佐明

わづらひ月を紙おろく心なれん人うきとや

竹河

卷之五

卷之六

作  
了  
示

梅

梅元也

卷之三

れ れ ゐ ゑ る り ん ろ れ ら れ ら れ ら れ  
御玉





百三

ちのひ

つらゆくたふのしるしにふくまふといふにきりや

百三十

秋下

秋下

わかれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて

秋下

秋下

あはれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて

秋下

秋下

あはれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて

秋下

秋下

あはれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて

秋下

秋下

百三

秋下

あはれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて

秋下

秋下

あはれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて

秋下

秋下

あはれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて

秋下

秋下

あはれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて

秋下

秋下

あはれはなはたしきとてわかれはなはたしきとて



芳  
ワタシは、おれとて、此の如く、  
我々へ、さういふ、あつた。

世の人のうちくまをたれいふもつゝうさへふまへ

世中せしむる人あきほくけきなり 我れあはれきくち

羽ふられつる山さといふ人さく世のめづらん  
うまひし

わりのやと心こころあひねいふれこころをさ

夏よりたゞとてしに於てくはるひもえのふかきなり  
 後秋下  
 りぬみ

いち山の紅葉をみるハ秋の味なり

いふれいふれ海をさしてふかき水に  
映子教上

七十九 ありあけの海を渡る舟に  
いづれか一人の舟に

是を以て、  
人々を以て

音韻下  
うゝうもあゝうゝあゝとちとくゝあゝれゝゝゝゝやひゝゝゝゝ

おほきれ月とやとよ入もの風ふれとてよとすけり  
久良親と

わく心うゝさうのうさうしあやとるすて山よてお月どきり

湘川よりうまれしやとささくえのまゝにけうとそとまうゝさきん

我心多々ふりなり 人々ニ  
おし人々

ひさののりいしきうにふきあつたきとつてそふねなり

うゝとてさひそとてぬじりしうちあふくこれ秋のふたれ  
平点文

ありてぬ命もつまればとらうきとあけくお  
右三

くらやうに又もあらうとてまぬく人々をうけぬ世もすう人  
 後より

いぢせともしひえきふすうさ地いゝ海心ともしきぬ也こりたり  
た別

文  
三  
今  
二  
三  
い  
の  
し  
お  
る  
お  
や  
と  
う  
人  
や  
と  
い  
ぬ



市采

傳其賜

張長

うつもいふはうとちうさうさうさうさうさうさうさう  
 山あれ入あひのうれうれうれうれうれうれうれうれ  
 ういづうれあううれあううれあううれあううれあう  
 ううれあううれあううれあううれあううれあううれあう

۱۰۰

右報之

多々

港交

雅

[illegible]

白雲之

まればやゝあやう梅の葉いふもさねくやうく  
 ちくくくしもみうく人てふは毒けくうく  
 ちくくくくくくくくくくくくくくくくく  
 ちくくくくくくくくくくくくくくくくく

在

列子

卷之二

4

扶之散

乃信

中齋集

卷之四

ちひ

五

人

ウリも草も木の根にひく人のきくのきす

族之

三

後進之

小町

漢

夫といふれいふるもせらむりかんじりねせしそふ海に  
 いのうつふれそけさうつを川にねさぬよしあれのをや  
 僅まよ  
 これ讀む人もふくろし　ふねまよ







海鏡一

兼備

人のあはれにふしむるあはれはなほあはれなりとゆふにわらふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

又これにのちあはれなるあはれはなほあはれなりとゆふにわらふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

あまふ

みづのきねをのれ苦しむる世のうらみんそそゆきなり

波の音のうへに  
はたき

けりてふれんせえ

後集

卷之七

後志二

三

上秋上

三

2

2

三

三

1

三

1

卷一

臣

卷之五

7

1

1

1

一

卷之

...

自

新米

七

卷之四

THE YN

1

卷之

古

37

人新

己巳

九

也

七

...

...

定人

七

...

うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天

うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天

うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天

うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天

うきもの天

うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天  
うきもの天

うきもの天

承應二年八月吉日  
八尾勘定御判行



